The National Conference of Community Cinemas 2019 in Saitama

全国コミュニティシネマ会議2019 in 埼玉｜参加申込書

下記内容を、8月20日[火]までにEmailまたはFAXにてご送付下さい。参加お申込みに対しては、追って確認のご連絡を差し上げます。
各回とも定員になり次第締め切らせていただきます。参加をご希望の方はお早めにお申込み下さい。

Email cckaigi2019@jc3.jp ＊件名に「全国コミュニティシネマ会議申込み」と記載の上、下記内容をメール本文に記入し送信してください。

FAX 03-3461-0760 ＊下記フォームにご記入の上、ファックス送信してください。

所属 [ふりがな]

所属部署・職名等

氏名[ふりがな]

住所

〒

TEL　　FAX

Email

■参加するものにチェックしてください。[各プログラムで会場・定員が異なります。必ず、チェックをしてください。]

9月6日[金]

☐ 13:30-18:45　会議

☐ 19:00-20:45　レセプション

9月7日[土]

10:00-12:00 分科会 [下記より、必ず1つをお選びください。]

☐ ①やっぱり、ここで映画をみたい－映画館をつくる/映画館を再生する

☐ ②映画館におけるデジタルシネマの今後と公共施設におけるデジタルシネマの導入を考える

☐ ③子どもと映画プログラム～若年層の観客を開拓する

映画上映

☐ 14:15-17:45　「映画ミーツ浪曲」プレミア上映会

会場:

SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ

埼玉県川口市上青木3-12-63

■バスの場合
▷JR京浜東北線川口駅から約13分
▷JR京浜東北線西川口駅から約9分
※バスをご利用の際は、余裕を持ってお越しください。

■タクシーの場合
▷JR京浜東北線川口駅から約10分
▷JR京浜東北線西川口駅から約7分

アクセスについて　http://www.skipcity.jp/visit/access/

お問い合わせ:

■申込に関するお問い合わせ:
コミュニティシネマセンター
TEL: 050-3535-1573
Email: film@jc3.jp
■アクセスに関するお問い合わせ:
全国コミュニティシネマ会議2019埼玉実行委員会
TEL: 048-265-2591(彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール)

文化庁委託事業「2019年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」
主催:文化庁、一般社団法人コミュニティシネマセンター、全国コミュニティシネマ会議2019埼玉実行委員会
[デジタルSKIPステーション/いきいき埼玉/埼玉県芸術文化振興財団/埼玉県公立文化施設協議会/埼玉映画ネットワーク/深谷シネマ/川越スカラ座]
後援:埼玉県/川口市/生活衛生同業組合 埼玉県映画協会/(公社)全国公立文化施設協会　協賛:COEDOビール　制作:コミュニティシネマセンター

JAPAN COMMUNITY CINEMA CENTER

SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ

The National Conference of Community Cinemas in Saitama 2019

全国コミュニティシネマ会議 2019 in 埼玉

コミュニティ×映画を考える2日間

会場:
SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ

参加費[要申込]:
会議：1,500円
※コミュニティシネマセンター会員は会議のみ参加は無料（1団体1名）
※9月6日、7日共に参加可。一部のみの参加も同じ。
レセプション:4,000円
映画上映:一般1,500円・高校生以下500円
※コミュニティシネマセンター[団体]会員は1団体1名は無料となります。

お問い合わせ:
コミュニティシネマセンター
TEL: 050-3535-1573　Email: film@jc3.jp
アクセスに関するお問い合わせ:
全国コミュニティシネマ会議2019埼玉実行委員会
TEL: 048-265-2591(彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール)

http://jc3.jp/wp/conference/

2019.9.6 Fri. ▸ 7 Sat.

全国コミュニティシネマ会議は、映画上映を行う人たちの情報交換と研究報告、ディスカッション、そして交流の場として、1996年から毎年開催されています。全国各地の映画館や、映画祭、シネマテークや公共ホール、自主上映団体、配給者や製作者、学生等々、上映活動、文化事業、コミュニティシネマの活動に関心のある人たちが集まります。興味のある人なら誰でも参加することができます。
今年の会議は、「独自の映像文化、新しい映像関連産業の創出・定着のための推進拠点」として埼玉県川口市に設立されたSKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザで開催します。映像ホールや映像ミュージアム、NHKの映像公開ライブラリー、また、スタジオやインキュベートオフィスなど映像製作支援施設もあり、毎年7月には「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭」が開催されています。
今年も、“映画上映の現在”を知り、これからの映画上映を豊かにするための、多彩なプログラムを準備しています。

PROGRAM

9月6日[金]

※出演者等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

会場:SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール[定員300人]

13:00 開場

13:30 開会 主催者挨拶／コミュニティシネマセンター事業報告

13:40-15:30 プレゼンテーション+ディスカッションⅠ

日韓コミュニティシネマ会議

韓国のコミュニティシネマ・アートシネマの人たちをお招きして、90年代半ばに始まった韓国のアートシネマ(ミニシアター)の歴史と現在の状況、KOFIC(韓国映像振興委員会)による映画館に対する支援のあり方等を聞き、今後の日韓のコミュニティシネマの交流について話し合います。

登壇者

チェ・ナギョン [全国芸術映画館協会代表/アートハウス・モモ(ソウル)副代表]
アートハウス・モモ www.arthousemomo.com
韓国で最も古い歴史をもつ名門女子大学・梨花女子大学の構内に、世界的な建築家ドメニク・ペローの設計による斬新なデザインの、一般市民に開かれた複合文化スペースがある。カフェやスポーツジム、書店等が入るこの建物の中に、2008年5月、映画館「アートハウス・モモ」が開館した。ここには138席の2つのスクリーンがあり、年間約250本の映画が上映されている。

チョン・サンジン [アートナイン(ソウル)代表] **ジュ・ヒ** [アートナイン(ソウル)理事]
アートナイン(ART9) café.naver.com/minitheaterartnine
アートナインは、ソウルとソウル近郊で2つのシネマコンプレックス「MEGABOX」を経営していたアットナイン・フィルムが、2012年12月、ソウル・イス駅そばのMEGABOXが入るビルの12階にオープンしたミニシアターである。2スクリーン(92席/58席)の劇場のほか、レストラン・カフェ、広々としたガラス張りのテラスがあり、様々なイベントが行われる。毎年11月末には国際交流基金と共同で日本映画の特集上映を開催。映画の制作や配給にも積極的に取り組んでいる。

チェ・ヒョンジュン [ミリム劇場(インチョン)支配人]
思い出劇場「ミリム」 www.milimcine.com
1957年に「東仁川駅」そばにある中央市場に開館した歴史ある映画館。70～90年代には多くの観客で賑わったが、2000年代に入り、シネコン全盛の時代になると急激に観客が減少、2004年に閉館に至る。しかし、2013年、国や市の支援を受けて、高齢者をターゲットにした「懐かしの名画」を上映する「シルバー映画館」として再開した。現在は、高齢者のみならず、幅広い世代が集まる文化施設を目指し、多様な映画を上映する。283席の劇場のほか、展示スペースやイベントスペースもある。

田井肇 [大分シネマ5/コミュニティシネマセンター代表]、**志尾睦子** [シネマテークたかさき支配人/高崎映画祭総合ディレクター]
司会: **岩崎ゆう子** [コミュニティシネマセンター]

15:45-17:45 プレゼンテーション+ディスカッションⅡ

上映者が作り手を育てる!

映画祭やミニシアター、コミュニティシネマは、インディペンデント映画の中に新しい才能を発掘し、積極的に紹介してきました。劇場公開本数が年間1100本を越えた現在、映画の作り手と上映者の関係は新しい時代を迎えています。インディペンデント映画と深く関わってきた上映者と新しい世代の監督が、作り手と上映者のよりよい関係を話し合いします。

登壇者

長谷川敏行 [SKIPシティ国際Dシネマ映画祭プログラミング・ディレクター](※プレゼンテーション)、**山崎紀子** [シネ・ヌーヴォ(大阪)支配人/次世代映画ショーケース2019](※プレゼンテーション)、**宮崎善文** [松本CINEMAセレクト代表]、**山戸結希** [映画監督/『21世紀の女の子』プロデューサー]
司会: **川村健一郎**[立命館大学映像学部教授]

18:00-18:45 **プレゼンテーションマラソン2019**

SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ、深谷シネマ、川越スカラ座、埼玉映画ネットワーク、新所沢レッツシネパーク、NPO法人たかさきコミュニティシネマ [シネマテークたかさき／高崎電気館／高崎映画祭]、**前橋シネマハウス** ほか

19:00-20:45 **レセプション** 会場:HDスタジオ

9月7日[土]

会場:彩の国ビジュアルプラザ [HDスタジオ／研修室②／ガイダンスルーム]

10:00-12:00 **分科会**

①やっぱり、ここで映画をみたい―映画館をつくる/映画館を再生する [定員:50人]

1990年代初頭には、全国に1500館以上あった映画館が、2018年には580館ほどに減り、全国各地に「映画館のない町」ができました。それでも「やっぱり、この町で映画をみたい、みせたい」と、閉館した映画館を新たな映画館としてリノベーションして再開し、新しい上映の場を作った人たちがいます。様々な事例を聞いて、あなたの町でも「映画館」(コミュニティシネマ)作りに挑戦してみませんか。

登壇者:**高田世界館、川越スカラ座、韓国・ミリム劇場、横浜シネマ・ジャック&ベティ** 等々
司会:**櫛桁一則** [みやこ映画生協／シネマ・デ・アエル]

②映画館におけるデジタルシネマの今後と公共施設におけるデジタルシネマの導入を考える[定員:50人]

デジタルシネマ機の導入から10年近くを経過した映画館では機器の寿命やアップグレードが気にかかり、導入を考える公共文化施設等は、デジタルシネマ機の現状、導入のメリット、予算等々を知りたい。上映者が抱える「デジタルシネマ機」に関わる様々な疑問について話し合い、情報共有のネットワークづくりを考えます。

登壇者:**山海隆弘** [埼玉会館]、**佐藤武** [広島市映像文化ライブラリー]、**堀三郎** [アテネ・フランセ文化センター] ほか

③子どもと映画プログラム～若年層の観客を開拓する [定員:30人]

観客の高齢化の進行～若い観客の開拓は、地域の映画館、映画祭、上映者が抱える最も大きな課題のひとつです。小さい頃からシネマテークやミニシアターで、多様な映画に触れる機会をつくること=“こどもと映画プログラム”は、迂遠に見えるかもしれませんが、最も重要な観客育成プログラムです。幼児から高校生まで、どんなプログラムができるのか、考えます。

登壇者:**丸岡秀樹** [デジタルSKIPステーション]、**岡崎匡** [ちいさなひとのえいががっこう]、**河本清順** [シネマ尾道]、**村上朗子** [川崎市アートセンター]、**阿部久瑠美** [鎌倉市川喜多映画記念館] 等々

12:15-12:45 **全体会** コミュニティシネマ会議 終了 会場:映像ホール

開催記念上映会

「映画ミーツ浪曲」プレミア上映会 [Fシネマ・プロジェクト]

会場:SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール [定員:300人]

近年、落語や講談、浪曲、活弁など、日本の「語り芸」がブームになっています。日本の伝統的な大衆芸能「浪曲」(浪花節)は、明治から昭和30年代に至るまで、最も庶民に親しまれた語り芸です。義理と人情を重んじる浪花節のスピリットは、「忠臣蔵」「清水次郎長伝」「国定忠治」「天保水滸伝」などを下敷きにした日本映画に継承され、戦後の日本映画黄金時代を興行的に支えました。
今回の上映会では、映画と浪曲の出会い、“映画ミーツ浪曲”のエッセンスを、若手の活弁士と浪曲師、曲師のフレッシュな顔ぶれでお楽しみいただきます。浪曲や活弁の魅力を語るトークには、最新作『カツベン!』が12月に公開される周防正行監督も登場します!

© 1933 松竹株式会社

14:15- 活弁付上映 **『出来ごころ』** 活動弁士:坂本頼光 曲師:沢村美舟

1933年/松竹/監督:小津安二郎/サイレント/白黒/114分/英語字幕付
『出来ごころ』は、小津安二郎〈喜八もの〉の第一作となるサイレント映画。
東京の下町の貧乏長屋を舞台に、坂本武演じる喜八を中心に、人情味あふれる人々の物語がユーモラスに描かれる。
冒頭、浪花亭松若なる浪曲師の「紺屋高尾」の口演を主人公たちが聴きに訪れている場面から始まる。

16:30- 浪曲実演 **『紺屋高尾』** 浪曲師:玉川太福 曲師:沢村美舟

紺屋高尾(こうやたかお)は浪曲、古典落語の演目のひとつ。神田にある紺屋の染物職人久蔵と吉原の花魁高尾太夫の純愛をテーマにした人情噺。大正末期に出た篠田実の浪曲レコードが、当時異例となる人気を得て、その後、多くの落語家によって演じられ、映画化もされている。

17:10- **浪曲師 玉川太福と活動弁士 坂本頼光+映画監督 周防正行**(『カツベン!』)**によるトーク**

この上映会は、フィルムでの上映環境を確保するために、「Fシネマ・プロジェクト」の一環として実施します。